

# 令和5年度 高速道路調査会 研究発表会(大阪)プログラム

開催日：令和5年10月18日(水) 10:30~16:40

EHRF 公益財団法人 高速道路調査会  
EXPRESS HIGHWAY RESEARCH FOUNDATION OF JAPAN

開催場所：AP大阪駅前（大阪市北区梅田 1-12-12 東京建物梅田ビル）

項目	時間 [ ]内は 質疑応答	時間帯 [ ]内は質疑応答
<b>1. 調査研究事業報告</b>		
公益財団法人高速道路調査会 審議役・研究第一部長 安部 馨	0:15	10:30~10:45
<b>2. 研究発表</b>		
(1)大阪大学大学院 工学研究科地球総合工学専攻 准教授 廣畑 幹人 氏 <b>鋼橋高力ボルト継手に対するIH塗膜剥離の施工条件探索</b>	0:45 [0:05]	10:45~11:30 [11:30~11:35]
鋼橋の防食塗装更新において、施工性や環境負荷低減の観点から、誘導加熱(IH)を利用した旧塗膜の剥離技術(IH塗膜剥離)が注目されている。塗膜剥離に要する鋼材の加熱温度は約200℃であるが、塗膜剥離のための加熱が高力ボルト継手の性能に及ぼす影響について不明な点が多く、IH塗膜剥離の適用拡大における課題の一つとなっている。本研究では、高力ボルト継手に対するIH塗膜剥離の施工条件を提示するため、一連の検討を実施した。		
【休憩】		
(2)日本大学 理工学部交通システム工学科 教授 谷口 望 氏 <b>床版取り換えに適した鋼-コンクリートずれ止め構造を用いた弾性合成桁に関する研究</b>	0:45 [0:05]	12:35~13:20 [13:20~13:25]
既存の道路用鋼橋では、床版の損傷が顕在化し、床版取り換え作業が頻繁に行われている。床版取り換え作業では、長時間通行止めや工事費増大など社会的損失が大きくなっている。また、2017年に制定された道路橋示方書では、設計手法が大きく変化した。床版取り換えに対する設計方針や、非合成桁への合成効果の設計対応など、現状で不明確な部分も多く、一部設計で混乱も生じている。これらの課題に対応し、床版取り換えに適した弾性合成桁構造を提案し、合理的な構造を提案する。		
【休憩】		
(3)京都大学大学院 工学研究科 教授 藤井 聡 氏 <b>高速道路網の拡充が大震災後の交通復興に与える影響の研究</b>	0:45 [0:05]	13:30~14:15 [14:15~14:20]
巨大震災においては、人命や社会資本等に対する直接被害に加え被災後の経済活動停滞による間接被害も甚大になるが、それを最小化する具体的方法や効果の検討は十分に行われていない。本研究では、高速道路網拡充が震災後の社会活動の復興速度に与える影響の検証を行った。東日本大震災後の道路通行実績データを用いて、道路ネットワーク毀損の回復に高速道路ICへのアクセス性が与える効果を分析したところ、統計的に有意な改善傾向が見られ、震災後の道路交通の早期復興に対し高速道路網強靱化が有効であることが示唆された。		
【休憩】		
(4)公益財団法人高速道路調査会 研究第一部 部長代理 狩野 禎久 <b>諸外国におけるAETおよび走行距離課金の導入状況に関する調査研究(その2)</b>	0:35 [0:05]	14:35~15:10 [15:10~15:15]
諸外国では、電気自動車や省エネ車の普及によって、道路整備の主財源である燃料税収入が減少するため、走行距離課金への転換を検討している。また、新型コロナウイルスのパンデミックにより、料金收受時の接触による感染を防ぐため、従来から進んでいた料金收受のキャッシュレス化(All Electronic Tolling, AET化)が加速している。このような背景のもと、諸外国におけるAETおよび走行距離課金の導入に向けての検討状況と論点を把握し、日本の高速道路料金制度への参考とすることを目的とした調査研究について、昨年度に発表を行った「総論」に引き続き、今年度は主に「諸外国のAETおよび走行距離課金の導入状況」などについて報告する。		
(5)公益財団法人高速道路調査会 研究第二部 主幹 竈本 武弘 <b>高速道路で培われた技術の歴史を伝承する取り組み~高速道路の橋梁技術史~(その2)</b>	0:35 [0:05]	15:15~15:50 [15:50~15:55]
日本で初めての高規格道路として開通した名神高速道路の建設から60余年、この間、高速道路の建設を通じて培われた技術は、高速道路の管理だけでなく、一般道路の建設・維持管理にも広く活用されている。 (公財)高速道路調査会では、過年度より継続的に高速道路の技術の歴史に関する調査研究を続けてきた。昨年度に発表を行った「総論」に引き続き、今年度は、「コンクリート橋」や「鋼橋」などの「高速道路の橋梁技術史」の概要について報告する。		
(6)公益財団法人高速道路調査会 研究第二部 担当部長・主幹 市岡 隆興 <b>高速道路等における大型車長時間駐車対策に関する調査研究(中間報告)</b>	0:35 [0:05]	15:55~16:30 [16:30~16:35]
各高速道路会社では、慢性的に混雑している高速道路のSA・PAの大型車駐車マスの改善策として駐車マスの増設を進めているが、増設しても他の車両が集まってきており、大幅な改善効果が発揮されていない。また、ドライバーの休憩・休息に対する法的な罰則が強化されたことなどにより、高速道路SA・PAでの駐車時間が長時間化していることも混雑の要因となっている。これらの背景を踏まえ、高速道路SA・PAの混雑解消など、これからの高速道路休憩施設等利用のあり方について研究を開始し、大型車長時間駐車の実状や背景の整理、SA・PAの利用のされ方の確認、今後の課題解決に向けた方向性や方策などについて検討を行ったので報告する。		
<b>3. 閉会挨拶</b>		
公益財団法人高速道路調査会 事業部長 田之脇 良徳	0:05	16:35~16:40

●CPD/CPDSの「受講証明書」を配布します【リアル開催限定】会場受付にて、希望者へののみ配布

土木学会 CPD 認定プログラム(4.5単位) / 全国土木施工管理技士会連合会 CPDS 認定プログラム(5ユニット)

●TOP/TOE-CPD 認定プログラム(受講証明書配布無し、各自申請)

一般社団法人交通工学研究会認定プログラム、項目 CO1.(1)として各自 CPD 単位数を申請できます。

